

'06 6th 都子さんメモリアル

愛とヒューマンのコンサート

「あなたの心に」

作詞 坂本（旧姓大山）都子
作曲 川崎祥悦

赤い毛糸に

だだいの毛糸を結びたい

だだいの毛糸に

トマン色の毛糸を結びたい

トマン色の毛糸に

空色の毛糸も結びたい

青い空に

深い緑の森を結びたい

結びたいんだ

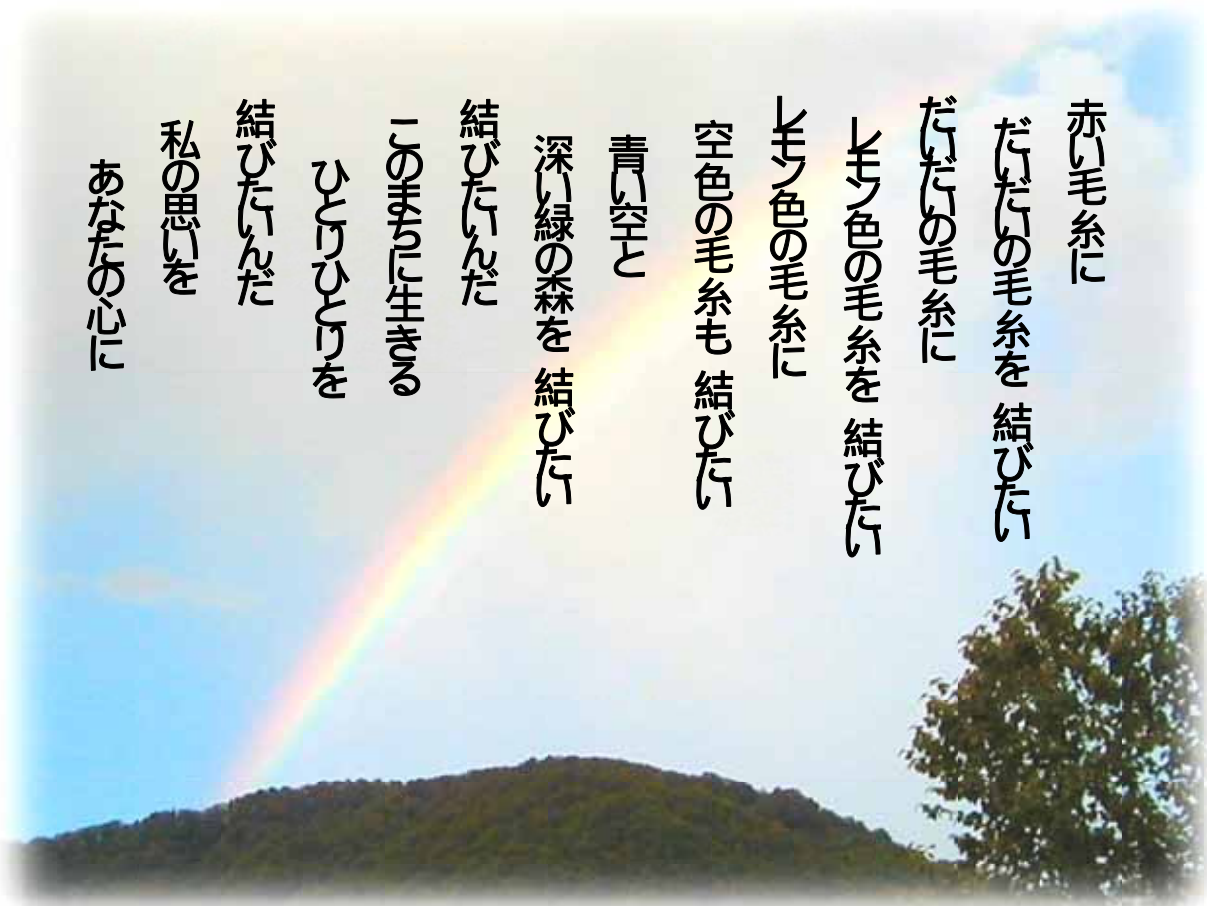
1のまじに生きている

つらつらさを

結びたいんだ

私の思いを

あなたの心に



ピアニストの森崎さんが見と
れているのは僧ヶ岳にかかっ
た虹です



1999年8月18日 僧ヶ岳林道の慰霊碑

ヴァイオリンは松本克巳さん フルートは^{おだいらのりこ}大平記子さん 譜面台役は山本清作さんのお孫さん
それぞれ^{つつみ}堤さん^{さとこ}都子さんの楽器を使って演奏しています

虹の伝説

慰霊碑前での追悼演奏のとき
僧ヶ岳にかかった虹

慰霊碑に刻まれている都子さんの詩



「都子さんが虹になってあらわれた！」と驚きました。
この後、虹がメモリアルコンサートのシンボルになりました。

赤い毛糸に

だいだいの毛糸を結びたい

だいだいの毛糸に

レモンいろの毛糸を

レモンいろの毛糸に

空いろの毛糸も結びたい

この街に生きる一人一人の

心を結びたいんだ

都子（十九才）



都子さんの詩に川崎祥悦先生が曲
を作られ、合唱曲「あなたの心に」
が生まれました



川崎さんは次のように語られました。

「最初に詩を読んだとき、赤やだいたいや、いろん
な色の毛糸がやたらでてきて、何だこれは？と思いま
した。しかし、結びたいんだ、あなたの心に、という
フレーズががっつんと響きました。これは作らなけれ
ばならない。頼まれたから作った曲ではありません、
作らなければならぬと思った。都子さんがたびたび
傍らに現れました。彼女と対話をくりかえし、こうし
ようかああしようかと相談しながら作った曲です」

生前、愛用していた楽器
都子さんのフルート
堤さんのヴァイオリン



慰霊碑表面に刻まれている碑文

坂本弁護士一家メモリアル

弁護士の使命は、基本的人権を擁護し、社会正義を実現することにある。それ故に正義と人権を踏みにじろうとする者にとって、弁護士の献身的な活動は脅威であり障害となる。坂本堤弁護士（横浜弁護士会所属）は、オウム真理教に出家させられた子供らの救出活動及びその反社会性を告発する活動に取り組んでいた。その最中の一九八九年一月四日未明、オウム真理教幹部らによって、その家族ともども自宅にて殺害された。

当初から、この事件はオウム真理教による犯行ではないかと強く疑われていたが、同教団に対する捜査は遅々として進まなかった。一方、全国の弁護士は、坂本弁護士の正当な業務活動を妨害するために同弁護士一家が拉致されたとみて、日本弁護士連合会、各地弁護士会、「坂本弁護士と家族を救う全国弁護士の会」等を中心に大規模な救出活動を展開した。救出活動は、市民の中にも広がり、「坂本弁護士と家族をさがす会」の活動、署名運動・請願運動、全国キャラバンなどにより、事件は全国的な関心事となっていた。

事件発生から五年を経た一九九五年三月、世界を震撼させた地下鉄サリン事件が発生し、その直後から、オウム真理教に対する大規模な強制捜査が開始された。その過程で、坂本弁護士一家事件も、オウム真理教による組織的犯行であることが明らかになった。

同年九月六日、坂本弁護士の妻都子さん（死亡当時二九歳）はこの地から、坂本弁護士（死亡当時三三歳）は同日新潟県名立町の大毛無山山中から、長男龍彦ちゃん（死亡当時一歳二ヶ月）は同月一〇日長野県大町市の湿地帯から、それぞれ発見された。都子さんは、大学生の時に、ボランティア活動を通じて当時大学生だった坂本弁護士と知り合い、社会的に弱い立場の人達とともに生きる姿勢に共感して、一九八四年に結婚した。小さな幸福も見落とさず大切に育てる姿を見て、「幸福さがしの名人」と友人達から言われた都子さんとその家族を、無事救出できなかったことは、私達にとって痛恨の極みである。

しかし、坂本弁護士が先駆的にオウム真理教を追及することがなければ、もっと多くの犠牲者が出たであろう。そして何よりも坂本弁護士一家の救出活動を通じて、弁護士活動への暴力的妨害は背後にある国民の基本的人権に対する侵害であり、司法制度ひいては民主主義への挑戦であるという共通の理解が、弁護士と市民の中に根を下ろした。

私達は、坂本弁護士がその使命を命懸けで遂行し、その志半ばで倒されたことを永く忘れることなく、その遺志を引き継ぐことを誓って、ここにメモリアルを建立する。

坂本弁護士一家は、五年一〇ヶ月もの間三ヶ所に離れ離れにされていたが、今は、ともに鎌倉円覚寺境内松嶺院に眠る。

一九九七年九月

日本弁護士連合会

富山県弁護士会

横浜弁護士会

坂本弁護士と家族を救う全国弁護士の会

大町市、龍神湖のほとりに建つ慰霊碑

裏面の碑文



事件が起きる三ヶ月半ほど前、都子さんは両親に宛てて、こんな手紙を書いている。

今日は本当に良い日でした。

毎日退屈して騒いでいる龍彦を海に連れて行ってやろうと思ひ立ち、朝、お酢を少し入れて御飯を炊き、ちぎった梅干をませて、のりとふりかけのおにぎりをつくり、お茶を水筒に入れて、山下公園へ遠足に行きました。

(中略)

眼をさました龍ちゃんが、三つあったおにぎりのうち、ひとつは自分の手でにぎりつぶしながらもいっしょうけんめい口に持って行って食べ、牛乳もよく飲んで、ベビーカーじゃいやだ、下におろしてくれと騒ぎ、地面をさかんにはいまわって、昼休みで公園に来ていたサラリーマン・OLの注目を集めたことです。ベビーカーの車輪をまわしたくて、ひよいと持ち上げ、ベビーカーを横倒しにしてから、心ゆくまで車輪で遊びました。

十二時半になり、ますます暑くなってきたので、帰ろうとすると、もっと遊びたいとだいぶ抵抗しました。電車に乗っても、だっこされるのがいやで、床をはいはいしたいと騒ぎ、やっこの思いで帰ってきました。親子とも汗まみれなので、シャワーを浴びて着替えをして、ほっとひと息ついたのですが、だっこしてちょっと外に出ると、もうコンクリートの上におろしてくれと騒ぎだしました。根負けしておろしてやると、せっかく洗った足を地面にすりつけてはいまわり、鉄柵につかまって立つと、うれしくて「うわう」なんて言いながらゆすっています。すぐに近所の子供が三人集まってきて、もうひとりで歩ける子まで龍ちゃんのみねをしてはいはいしました。親以上に子供にはパワーがあります。

(中略)

龍彦もさすがに疲れたらうと、夕食とお風呂を早めにするませ、寝ついたのは八時過ぎです。結構タフな子供だと思いませんか。

(後略)



弁護士になった直後、坂本は「一年生」と題する、
こんな文章をつづっている。



何を書いても自由ということなので、僕と同時に社会に巣立った一人の青年のことについて書きます。

彼と僕の出会いは今から七年前にさかのぼります。知り合いの脳性マヒの女性から、自閉症の彼の家庭教師兼話し相手になってくれないかと言われて引きつけたのがはじまりでした。それまで精薄の子供達とのつきあいがあったのでそれ程不安は感じませんでしたが、片道二時間半の距離は正直言って負担でした。

しかし彼との付き合いは本当に豊かなものを与えてくれたと思います。人間にとって本当に大事な、ギリギリのものは何か。それを失う危機に直面した時に、彼は自ら心を外に向かって閉ざすという形で対処せざるを得なかったのです。彼の前では、その最も大事なものの上にいろいろはりついた通俗的な虚飾は何の役にもたちませんでした。一つ一つの出来事の中でゆっくりゆっくり心を開いてもらうしかありませんでした。実に五年間に及ぶ悪戦苦闘でした（「自分との」という意味です）。

彼は一度、自分の好きな女の子に会いに行くと、家がわからなくてウロウロしていた時、痴漢と間違われて付近の住民からリンチにあっけまいました。しかし彼はその不当性を外に訴えることができません。ただ、みずからの心をズタズタにして苦しむだけでした。誰にも伝えられなかったその思いがはじめて僕の前で外に向けての形になった時に、「声なき彼らのような人々」の心を汲み取るような仕事をしたいと心から思いました。

そんな気持ちで今は一年生です。彼も又、自動車工場で働く一年生です。先日電話で、「大丈夫かい？」と聞くと、「若いから平気です」と元気な答えでした。彼から学んだものをいつまでもちづるか、それが弁護士としての僕の課題だと思っています。



2004.10.31
天神山交流館合唱棟
第4回メモリアルコンサート
「あなたの心に」初演

指 揮：川崎祥悦
ピアノ：宮本則子
合 唱：市民有志

2005.8.21
新川文化ホール
第5回メモリアルコンサート

指 揮：宮本則子
ピアノ：立野芳
合 唱：市民有志（SATOKO）

